

## 5. その他 (流域治水事例集について)

みんなのアクション

## 流域治水

優良事例集

- この事例集は、流域のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の取組を実践する際の参考となるよう、**全国の事例、先進事例を取りまとめたもの**です。
- 取組の目的・実施主体・支援制度・推進のポイント等を分かりやすく簡潔にまとめ、**地域の特性等に応じた各施策の効果的な実践や、関係者間の連携につながる**ことを期待しています。
- 初版では、先行的に一部の地域の取組を紹介していますが、ここで示す事例以外にも、施策横断的な取組や、地域独自の治水の知恵・古くからの取組など、数多くの好事例が考えられます。今後、継続的に内容の更新や充実等を図っていく予定です。

国土交通省 水管理・国土保全局の「流域治水施策集」のページに掲載されています。  
該当ページでは、「1. 流域治水施策集」、「2. 流域治水優良事例集」が掲載されています。 1

## #9 雨水貯留浸透施設（下水道）

流域治水優良事例集

**八木・緑井地区**  
(広島県広島市 太田川水系古川)

【凡例】  
■ 雨水きよ整備  
● 砂防環境整備 (国土交通省)

八木・緑井地区

**実施主体**  
 ・広島県広島市

**関係者**  
 ・国土交通省  
 ・広島県

**活用制度**  
 ・通常の下水道事業  
 ・河川・下水道一体型豪雨対策事業

### 市街地における浸水対策(下水道)

#### 推進のポイント

- ◎ 下水道の整備水準を5年確率降雨(46mm/h)から10年確率降雨(53mm/h)に引き上げることで、浸水に対する安全度を向上。
- ◎ 下水道と河川の合築施設として整備することで、それぞれ別々に施設整備を行うよりもコスト縮減。

#### 事例概要

平成26年8月の集中豪雨(87mm/h)により、大規模な土砂災害と広範囲に渡る浸水被害が発生し、再度災害防止の観点から、下水道の整備水準を5年確率降雨から10年確率降雨に引き上げました。

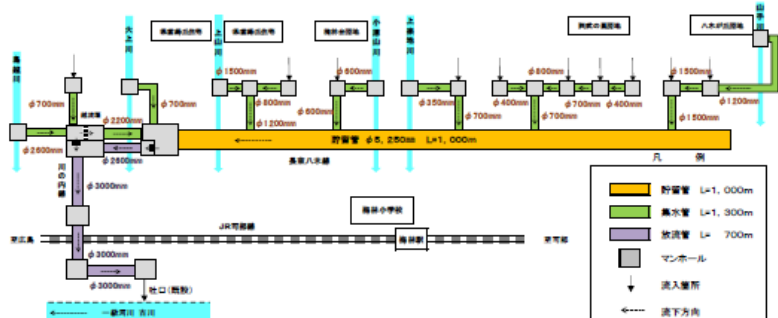
また、地区内を流れる普通河川の断面が狭小で、豪雨時に流下能力が不足するため対策を講じる必要があり、河川改修(河道拡幅)を実施するには多大な費用を要するため、河道拡幅に替えて、下水道と河川の一体的な雨水貯留管を計画しました。



シールドマシン全景  
(シールド機外径φ5,900mm)



雨水貯留管内部  
(仕上がり内径φ5,250mm)



#### PRポイント

- ◎ 下水道が整備する雨水幹線に河川の調整池としての機能を付加。
- ◎ 下水道の10年確率降雨と河川の30年確率降雨で必要となる施設能力を算定し、流量按分により下水道と河川の事業費を按分している。
- ◎ 東西のマンホールに設置した二つのオリフィスにより、放流先河川（一級河川古川）への効率的な流量制御を実現。